

通級による指導　自立活動学習指導案

令和6年 月 日 校時

第2学年 A児 自校通級

指導者 ○○ ○○

1 題材名

「絵本の読み聞かせをしよう」

2 児童の実態

本児童は、何事にも真面目に一生懸命取り組むことができる。人とかかわることが好きで、男女問わず、誰にでも明るく話しかけることができる。1年生時の構音器官の観察・検査では、舌の形状等、发声発語器官に明らかな異常は認めないが舌運動の巧緻性が低く、舌の脱力や舌を上下に滑らかに動かすことがうまくできないなど、口腔の随意運動の弱さがあった。詳しく検査していくうちに、ダ行音がラ行音に置換（「ただいま」→「たらいま」）、カ行音では「キ」が「チ」に置換するなど、話し方に不明瞭さが多くみられた。また、援助要求ができにくく、学習中は自信のない様子が表情や素振りから感じられた。

昨年度の10月末から週1時間の通級の利用を開始し、構音の改善が少しづつみられた。参観日では学級で司会を務め、積極的な姿を見ることができ、児童自身の頑張りや通級による指導での学びが通常の学級での自信につながりつつあることが感じられた。しかし、まだ正しい音の定着が正確ではなく、音韻認識の弱さから書き誤りがある。また、字形に気を付けて書こうとすることはできるが、漢字の形を十分に捉えられず、書き誤りが多いことに課題が残る。

検査名	調査実施	検査結果

3 題材設定の理由

児童には、年の離れた弟がおり、家でよく読み聞かせをしている。しかし、弟に寄り添うがあまり、弟につられて幼児語を喋ってしまうことがあり、正しく身に付き始めた音に対して般化が不安定なところがある。本題材は、課題の一つであるダ行音を一つ一つはっきりと発音できるようになることがねらいである。また、弟に正しい発音で絵本を読み聞かせるという目的意識を大切にし、児童自身の自信につなげたい。

自立活動の指導の関連する項目「6 コミュニケーション（2）言語の受容と表出に関するこ」が主な活動で、「心理的な安定」や「身体の動き」などにも関連している。発音の課題を改善することにより、日常会話でもスムーズに発音できるようになってほしい、と考える。また他者とかかわる意欲が低下しないように、正しい構音方法を身に付けるとともに、書き誤りを減らしていきたい。

本題材の指導では、口、舌の体操、呼気練習を中心に、課題音の弁別、単語や文章の読みを練習する。また児童が楽しみながらトレーニングするために息をまっすぐに当てるためのフーフーサッカーや吹き戻し、舌のスムーズな上下左右運動のためのガラガラうがいを取り入れている。タブレットを活用

することで自分の音を客観的に知るなど楽しく取り組むことができる教材の工夫を行う。また、言葉遊びではしりとり風船バレー、すごろく遊びなどを通して、自己表現力を高めつつ、語彙を増やすような言葉の学習を行う。コミュニケーション指導として、毎回「お話しタイム」の時間を設定し、サイコロトークをしたり、自分が経験したことや思っていることを伝えたりする機会を設けている。困っていることや分からない時など、気持ちを言語化でき、相手に伝えられるように言葉の力をさらに育んでいきたい。

ビジョントレーニングでは、児童の見る力や目と手の協応を高め、文字の形を細部まで見て、字形や書き順を整わせていきたい。通級による指導を利用し、「できた！」や「やってみたい！」「失敗しても大丈夫！」と感じられるような取組を行い、達成感を味わわせ、自己肯定感を高めていきたい。これらの指導を通して、通常の学級で前向きに過ごし、友達とのよりよいコミュニケーションにつなげてほしい。

A 児 長期指導計画（ダ行・カ行発音改善が見られるまで）

指導内容	時期（月）	1年生			2年生									
		10～3月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ビジョントレーニング														→
グ体幹トレーニング														
構音器官の機能訓練														→
母音練習														→
聞き分け訓練														→
タ行音									→					
ダ行音														→
カ行音														→
音韻分解														→
ことばの学習														→

今現在の対象児童の段階

4 題材の目標

- ・ダ行の音を明瞭に発音し、読み聞かせや文章、会話の中で正しく言うことができる。

5 指導計画（全 7 時間）

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| ・読み聞かせのことを知り、絵本を選ぼう | ・・・ 1 時間 |
| ・読み聞かせをしたい相手に合わせて、絵本の内容や言葉を考えよう | ・・・ 2 時間 |
| ・ダ行音とラ行音に気を付けて、文章や絵をかこう | ・・・ 2 時間 |
| ・絵本を読む練習をしよう | ・・・ 1 時間(本時) |
| ・読み聞かせをしよう | ・・・ 1 時間 |

6 本時の目標

- ・構音器官の働きを高める活動に取り組み、明瞭な読み聞かせを行うことができる。

7 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	<p>1 学習内容を確認する。</p> <p>2 「お話タイム」</p> <ul style="list-style-type: none">・テーマに合わせて、いつ・どこで・だれが・何をした・どうなったか・思ったことなどを入れて話す。 <p>3 「ビジョントレーニング」</p>	<ul style="list-style-type: none">・学習の流れを提示することにより、見通しがもてるようとする。・話の観点を提示して順序立てて話すことができるようとする。また、楽しい雰囲気を作り、児童がリラックスして学習できるようとする。・タブレットに課題を提示することで、明確に課題に取り組むことができるようとする。	<ul style="list-style-type: none">・自分から進んで話すとしたり、会話を楽しんだりしている。(観察)
展開	<p>4 「口と舌のたいそう」</p> <ul style="list-style-type: none">・構音器官の働きを高める訓練を行う。	<p>絵本の読み聞かせをしよう</p> <ul style="list-style-type: none">・口形に気をつけ、舌の脱力や上下左右への随意運動を中心に行い、構音器官の働きを高めることにつなげる。・鏡をよく見て、自分の舌や唇、頬の動きを自分でも見て意識できるようにする。・分かりやすい言葉で指示し、できた動きは称賛する。	<ul style="list-style-type: none">・口を大きく動かすことができる。・舌が上下左右の唇に触れることができる。 <p>(観察、指導者の即時評価)</p>

	<p>5 課題音をよく聞いて、正誤弁別をする。</p> <p>6 構音練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガラガラうがい ・舌のホッピング ・単音の練習 ・ダ行音 語頭、語中、語尾音の練習 <p>7 読み聞かせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダ行の言葉に丸をする。 ・読み聞かせをする。 	<p>・絵カードを見ながら、正しい「ダ行音」と誤りやすい「ラ行音」を聞くことにより、音の違いに気づくことができるようになる。</p> <p>・構音練習を通して、舌がスムーズに動く感覚をつかむことができるようになる。</p> <p>・ダ行音を丸で囲み、意識して音を出す経験を積む。</p> <p>・動画に撮り、児童と一緒に聞き直し、言うことができた音にはシールを貼る。</p> <p>・ダ行音を丸で囲み、意識して音を出すようになる。</p> <p>・教師が子ども役になり、聞き手を意識して、読み聞かせができるようになる。</p>	<p>・課題音10音中、8割以上正答を言える。(観察、指導者の即時評価)</p> <p>・言うことができた音にシールを貼ことができ、言うことが難しかった音に気づくことができる。(観察、指導者の即時評価、自己評価)</p> <p>・聞き手を意識して、明瞭な読み聞かせができる。(観察、指導者の即時評価、自己評価)</p>
終末	7 今日の振り返りをする	・児童の頑張りを伝え、話すことへの意欲を高める。	

8 評価

- ・構音機能の働きを高める運動に進んで取り組むことができたか。
- ・構音を意識して、「ダ行」音を出そうとしたか。